

令和8年1月21日時点

第2次 小山町自転車活用推進計画

富士の絶景・自転車のまち 小山

～オリパラレガシーを継承し、サイクリングを楽しむ～



令和8年1月

小山町

目次

第1章	総論	1
1	自転車活用計画の位置づけ	1
2	自転車に関する社会潮流の変化	3
3	計画の期間	9
4	対象区域	9
第2章	自転車活用推進の現状と課題	10
1	取組の経過と現状	10
2	前計画の評価	19
3	計画課題の整理	22
第3章	第2次自転車活用推進計画	23
1	目指す姿	23
2	計画目標	24
3	新体系	25
4	施策と措置	27
5	計画の評価指標のまとめ	30
第4章	計画の推進	34
1	計画の推進体制	34
2	計画の進捗管理	34

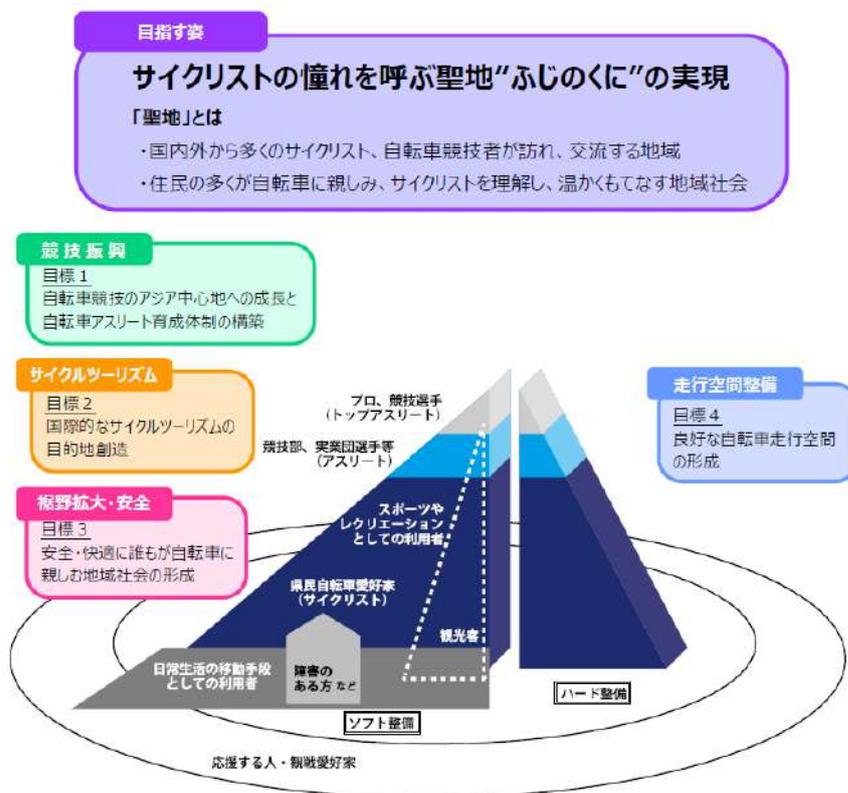
第1章 総論

1 自転車活用計画の位置づけ

自転車は、通学・通勤時や買い物など、日常的に利用される交通手段で、子どもからお年寄まで幅広い年齢層が利用している。近年では、健康増進や環境負荷への低減、災害時の移動の有能性など、自転車のメリットが見直され、更なる利活用が進んでいる。

国においては、交通の安全の確保を図りつつ、自転車の利用を増進し、交通における自動車への依存の程度を低減することによって、公共の利益の増進に資することなどを基本理念とする「自転車活用推進法」（2016年法律第113号）（以下、法）が2017年5月に施行され、2018年6月に第2次自転車活用推進計画が閣議決定された。

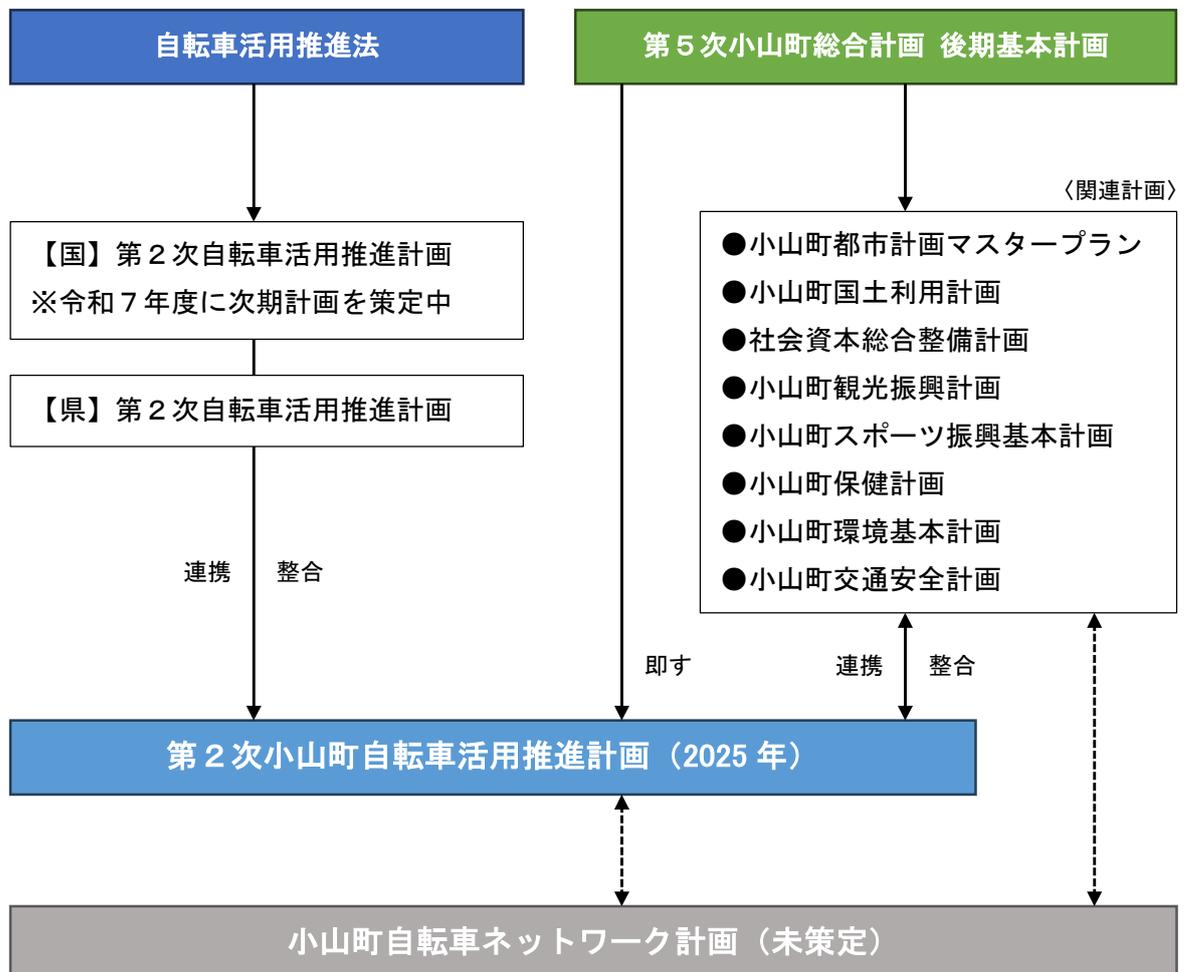
静岡県では、東京2020オリンピック・パラリンピック自転車競技大会（以下、東京2020大会）のレガシーとして、市町や民間団体等と一丸となり、静岡県をサイクルスポーツの聖地とするため、自転車競技振興、サイクルツーリズム推進、愛好者の裾野拡大、安全利用の促進、走行空間整備等に取り組んでいる。国の第2次計画を勘案し、2019年3月に「静岡県自転車活用推進計画」、2022年3月「第2次静岡県自転車活用推進計画」が策定された。第2次静岡県自転車活用推進計画では、オリンピック・パラリンピック自転車競技のレガシー創出、SDGsを意識した取組、健康増進、生活様式の変容による自転車通勤、ナショナルサイクルルートへの活用、自転車アスリートの育成・競技力向上としてジュニア育成の視点を加え、施策を展開するとされている。



(図) 第2次静岡県自転車活用推進計画の「計画の目標」

小山町では、法第 11 条に基づき国計画及び県計画を勘案し、東京2020大会の開催地でもあることから、小山町の実情に応じた自転車活用を推進するため、2020年3月「小山町自転車活用推進計画」を策定した。静岡県内では本町を含め 11 市町が「自転車活用推進計画」を策定している。

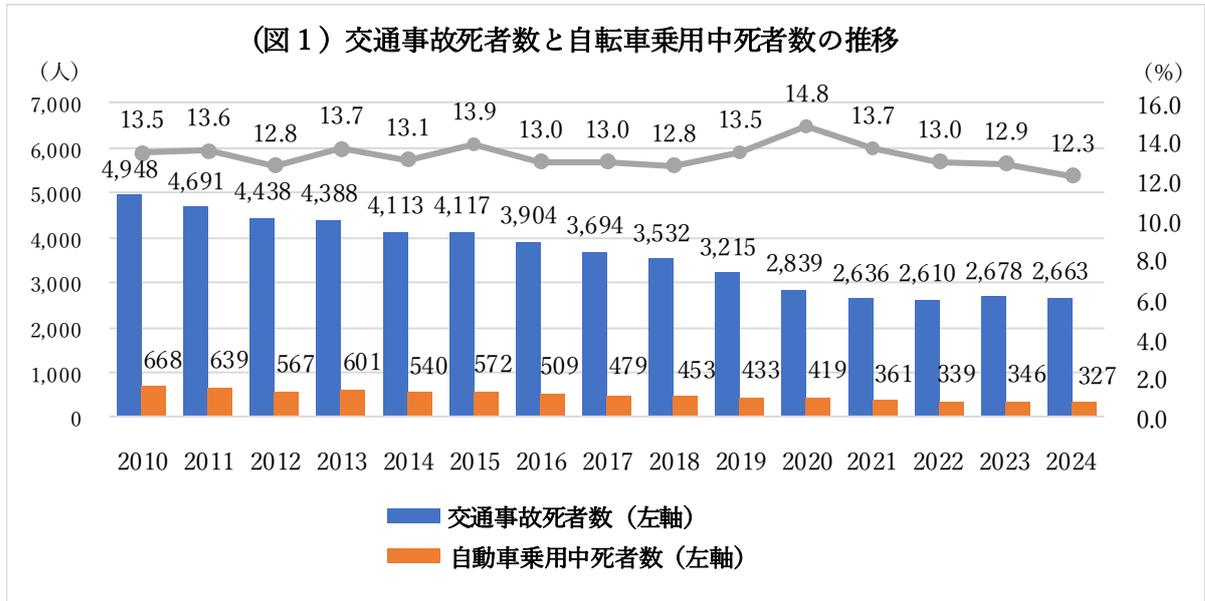
第 2 次小山町自転車活用推進計画においては、総合計画を上位計画とし、関連施策と相互連携し、ロードレースコースの整備だけではなく、シビックプライドの醸成、サイクルタウンとしての知名度向上、経済活動の活発化、観光客の増加など、有形・無形の多くの効果が期待されることから、これらのレガシーを見据え、最大限に活かす計画として位置付けていく。



2 自転車に関する社会潮流の変化

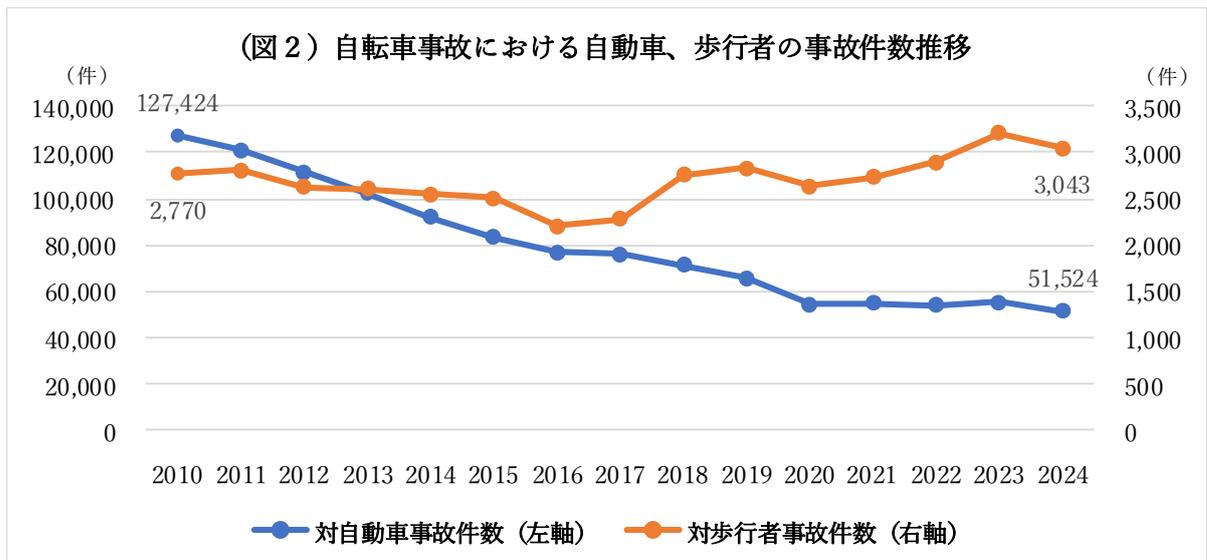
(1) 自転車の交通事故

交通事故死者数及び自動車乗用中死者数は減少傾向にある中で、自転車乗用中死亡者数（図1）はほぼ横ばいで推移しており、全国的に自転車の交通安全対策が課題となっている。



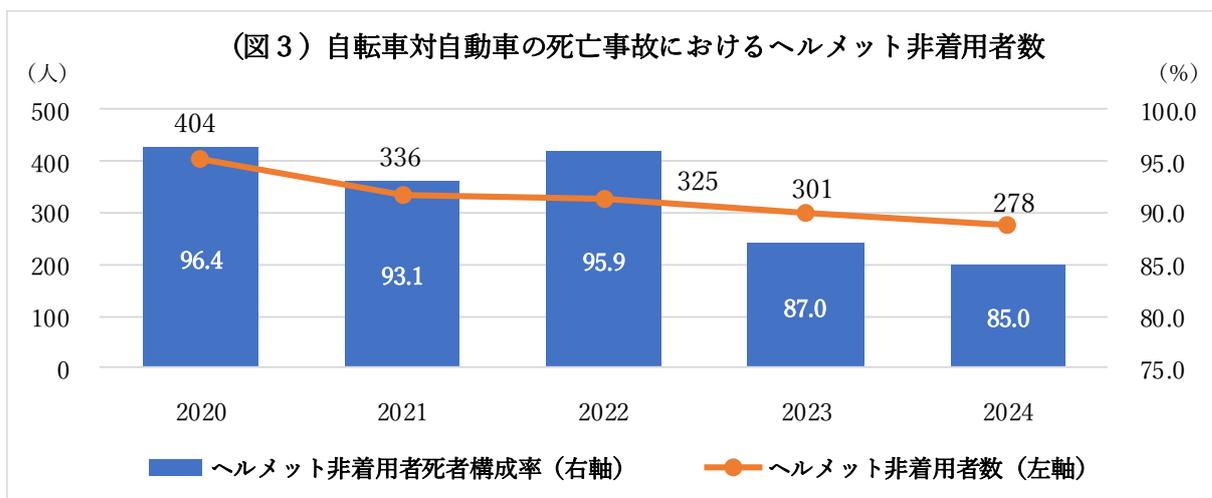
資料：警察庁調べ

また、自転車と自動車の事故は減少傾向であるが、自転車対歩行者の事故が増えている（図2）。この10年間でサイクリングが普及してきたことや、都市部や観光地においてシェアサイクルが普及していることに起因するが、自転車の歩行者への対策が課題となっている。



資料：警察庁調べ

そのため、自転車の安全対策としてヘルメット着用の努力義務化や各地でヘルメット着用が呼びかけられており、ヘルメット非着用者の死亡者割合は減少している（図3）。

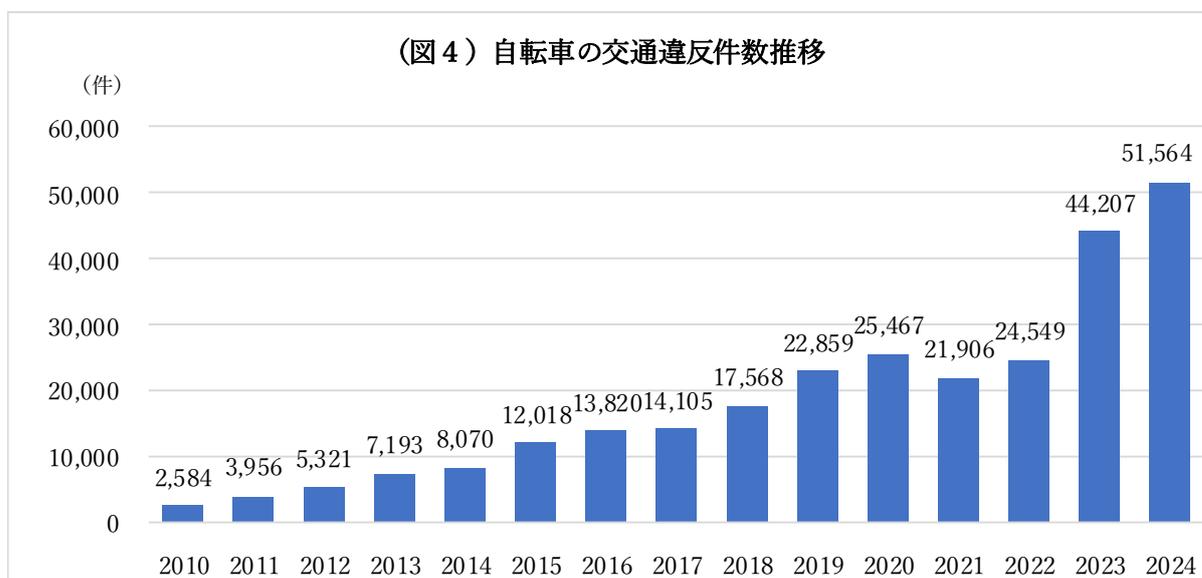


資料：警察庁調べ

自転車の交通違反件数も増加傾向にあり、新型コロナウイルス感染症が下火になってから急増している（図4）。2024年（令和6年）は過去最高の交通違反件数となっており、自転車運転者が自転車も車両であるという認識が欠如しているドライバーが多く、自転車のルール徹底強化や啓発活動が大きな課題となっている。



ヘルメット着用の啓発チラシ（小山町）



資料：警察庁調べ

近年、国も公共交通の機能を補完し、観光振興や地域の活性化等に資する目的で、シェアサイクルの普及促進を図っており、その中で、電動アシスト自転車だけでなく、電動キックバイクなどの特殊小型原動機付き自転車の利用も増えている。しかし、特殊小型原動機付き自転車の交通ルールを守らない走行が課題となっており、特にインバウンドの増加に伴い、日本の複雑な自転車等の交通ルールを知らない、あるいは標識が読めない外国人観光客による違反も目立つようになってきた。

そのようなことから、自転車も車両の仲間であるため、交通ルールの遵守を図り自転車による交通事故の抑止を目的に、令和8年4月1日から16歳以上の者による自転車の一定の交通違反に対して、「交通反則通告制度（青切符）」が導入されることとなった。

自転車だけでなく、歩行者等にも安全安心な交通環境の創出が期待されている。



道路交通法改正と交通反則通告制度開始のチラシ

出典：警視庁

(2) サイクリング人口と経済効果

レジャー白書 2024 によると、スポーツ部門の中でサイクリング人口はジョギング・マラソン、トレーニングに次いで参加人口や参加率、年間活動回数が高い値となっており、一般的なスポーツとして定着している野球、サッカー、テニス、卓球、ゴルフより参加人口が多いという実態が示されている（表 1）。

一方でサイクリングは一般的なスポーツやレクリエーションとして浸透していることではあるが、ゴルフや釣り、テニス、水泳などと比べて年間平均費用が低いことが読み取れる。これは、用具等の費用、会費等の金額で遠方に出かけるための旅費や宿泊費は含まれていないことに起因する。

今後はサイクルツーリズムとしての環境整備や気運を高めることで消費の拡大を図り、地域活性化にも役立つことに注力する必要があると思われる。フジイチを推進し、広域観光を呼び込む戦略が求められる（表 2）。

（表 1）余暇活動への参加・消費の実態

【スポーツ部門】

	参加人口	参加率	年間活動回数	年間平均消費額	参加希望率
ジョギング・マラソン	1,730 万人	17.8%	41.0 回	13.3 千円	20.0%
トレーニング	1,530 万人	15.7%	59.4 回	23.5 千円	17.7%
サイクリング、 サイクルスポーツ	580 万人	6.0%	37.0 回	24.6 千円	7.2%
卓球	540 万人	5.5%	16.4 回	9.7 千円	5.9%
水泳（プールでの）	540 万人	5.5%	30.0 回	31.8 千円	9.5%
ゴルフ（コース）	530 万人	5.4%	17.3 回	164.6 千円	6.7%
野球、キャッチボール	520 万人	5.3%	17.1 回	15.3 千円	4.7%
ゴルフ（練習場）	510 万人	5.2%	21.2 回	26.3 千円	6.0%
釣り	510 万人	5.2%	10.2 回	44.6 千円	8.5%
サッカー	370 万人	3.8%	21.3 回	21.7 千円	3.0%
バレーボール	300 万人	3.1%	18.5 回	10.1 千円	2.2%
テニス	330 万人	3.4%	35.5 回	46.6 千円	5.8%

資料：レジャー白書 2024（データは 2023 年）

（表 2）サイクリスト国勢調査 2021（一般社団法人ルーツ・スポーツ・ジャパン）のレポートによる
サイクルツーリズムの傾向、市場規模

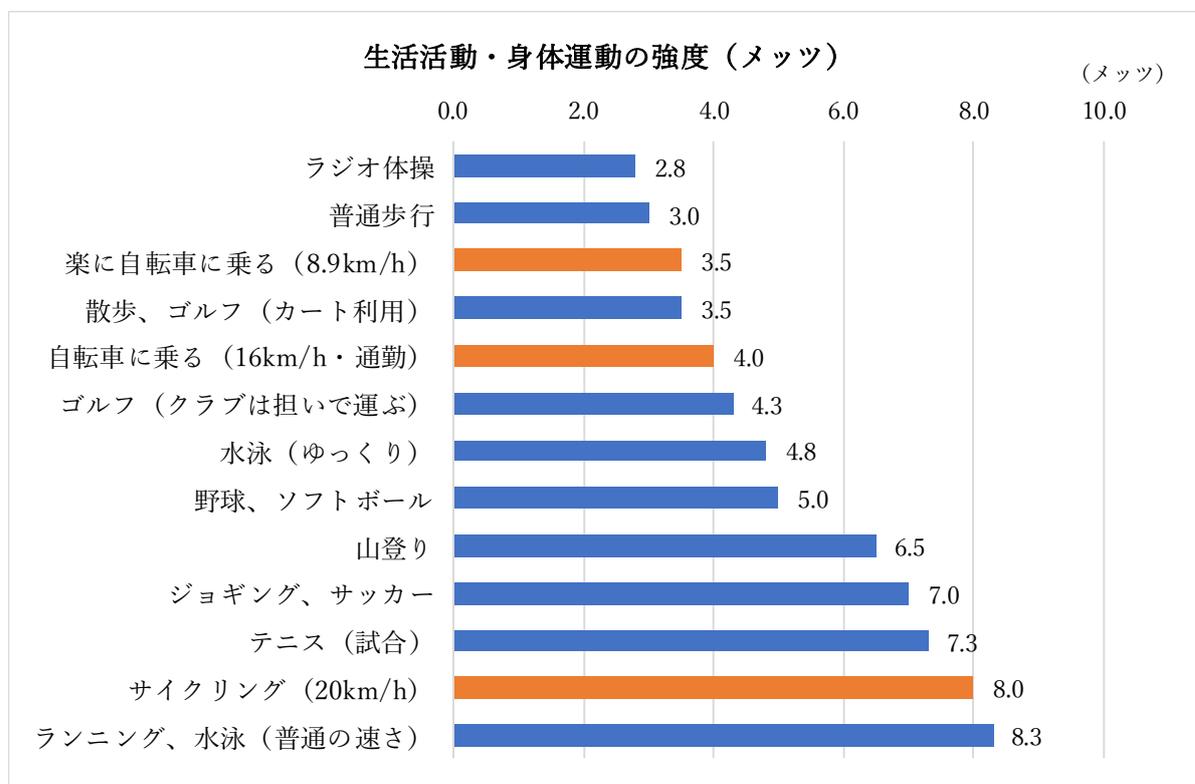
日常の移動手段層が減少 （通勤・通学、仕事、日常生活）	健康や旅行・レジャー、ツーリング、イベントなどの サイクルツーリズム層が増加
サイクルツーリズム経験者数	4,222 万人（全 15 歳～74 歳の 55.6%）
直近 1 年以内での経験者数	1,382 万人（全 15 歳～74 歳の 18.2%）
サイクルツーリズムの国内マーケット	年間 1,315 億円（推計値）
サイクルツーリズム消費額	1 回あたり平均 3.7 万円

(3) 健康

サイクリングは心肺機能の向上、生活習慣病の予防、筋力アップ、メンタルヘルスの改善など、さまざまな健康効果をもたらすと言われている。厚生労働省の「健康づくりのための身体活動・運動ガイド 2023」の資料編に掲載されている生活活動・運動メッツ*表より、サイクリングにおける身体運動の強度（メッツ）を運動種目で比較を見ると、サイクリング（全般）で4.0～8.0という値となっており、他の一般的なスポーツ、激しいスポーツ（テニス、サッカー等）と同等かそれ以上の運動量である。

サイクリングは有酸素運動で、膝や足首への負担も少ないため、中高年層でも負担が少なく運動できるスポーツであり、自分のペースで走れば健康増進に役立つと言われている。

四季折々の景色も楽しめるので、心と体のリフレッシュ効果が高いとも言われている。



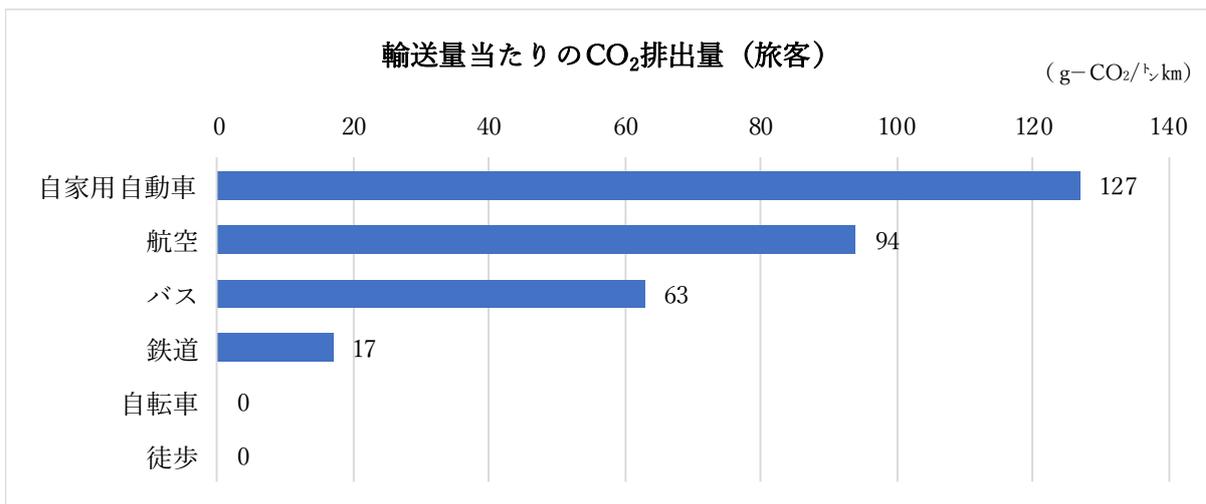
資料：国立健康・栄養研究所改訂版「身体活動のメッツ (METs) 表」改訂版より改変

* メッツ：身体活動の強さを、安静時の何倍に相当するかで表す単位のこと。座って安静にしている状態が1メッツ、普通歩行が3メッツに相当する。

(4) 環境

①自転車のカーボンニュートラルへの寄与

旅客輸送において、各輸送機関から排出される二酸化炭素の排出量を輸送量（人キロ：輸送した人数に輸送した距離を乗じたもの）で割り、単位輸送量当たりの二酸化炭素の平均的な排出量を試算すると自転車はゼロであり、2050年カーボンニュートラル実現に向けて、脱炭素化に向けては、公共交通、自転車、徒歩などの低炭素な交通手段への転換促進が必要とされている。



出典：国土交通省総合政策局環境政策課HPより
運輸部門における二酸化炭素排出量（2023年）

SDGsは、環境や健康、持続可能な消費など、世界の様々な問題を2030年までに解決するための国際的な開発目標である。人口減少・少子高齢化が進展する中で、持続可能な社会の実現を目指して、SDGsに積極的に取り組むことが求められている。

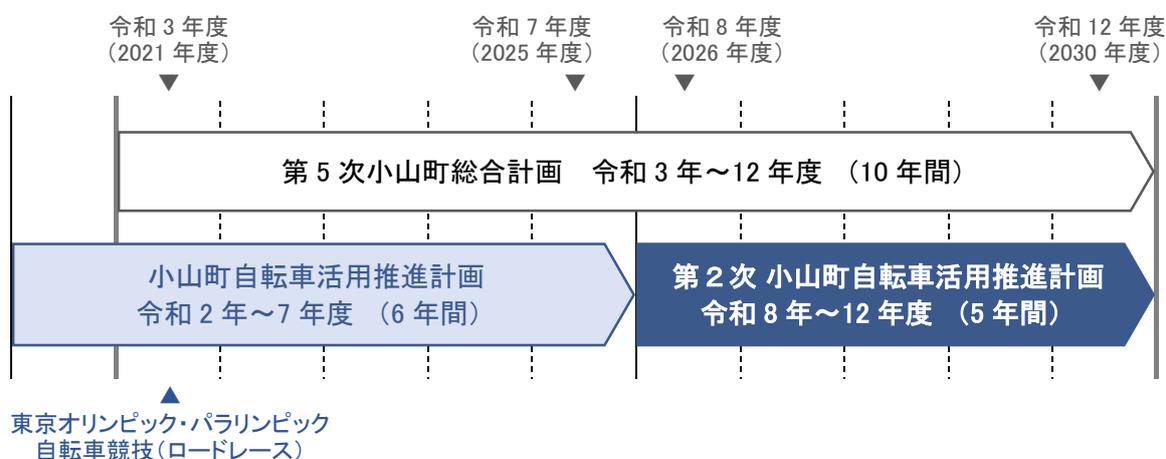


SDGsの開発目標17項目の中で、自転車活用に関係する主な項目として、5つの項目が挙げられるため、企業の関りも得られる可能性がある。



3 計画の期間

本計画は、令和 8（2026）年度を初年度とし、令和 12（2030）年度を目標年度とする。



4 対象区域

本計画の対象区域は、小山町全域とする。

なお、富士山東麓地域（2市1町1村：御殿場市・裾野市、小山町、山中湖村）については、本計画において、県境を越えた広域連携をはかっていくエリアとする。



第2章 自転車活用推進の現状と課題

1 取組の経過と現状

(1) 矢羽根整備の状況

- 東京2020大会のルートになっていた道路には、道路工事の区間を除いて、路面に矢羽根が表示されている。明神峠を経由するルートの下りは、傾斜が急なため、矢羽根は表示されていない。
- 矢羽根の表示デザインは、静岡県と山梨県で色合いと形状が異なっているが、基本的な外観は同じである。
- 交差点部分には、重点表示されており、コースを間違えない配慮がなされている。
- 町内で整備済みの矢羽根について、フジイチのメインルートを除いた路線は、国の規定する大きさより小さい矢羽根となっている。

(2) サイクリング受入れ状況

① バイシクルピットへの登録（静岡県との連携）

- 静岡県ではサイクルスポーツの聖地を目指して、①競技振興、②サイクルツーリズム、③裾野拡大・安全、④走行空間整備の4つの柱により全県で取り組んできた。
- 静岡県スポーツ局は、スポーツコミッション Shizuoka を運営しており、県内のスポーツ振興に取り組んでいる。このスポーツコミッションではサイクリストを迎えるためにバイシクルピットの登録を進めている。
- 各バイシクルピットには、サイクリストのために自転車用修理工具、空気入れポンプ、駐輪ラックが配備されており、定期的に設備がチェックされている。
- 町内に19箇所のバイシクルピットが登録されており、静岡県と連携したサイクリストのサポートを行っている。

No.	施設	No.	施設
1	駿河小山駅前交流センター	11	小山町憩いの家あしがら温泉
2	道の駅「ふじおやま」	12	総合文化会館
3	道の駅「すばしり」	13	健康福祉会館
4	セブンイレブン駿東小山店	14	富士浅間神社
5	セブンイレブン駿東小山町菅沼店	15	マックスバリュエクスプレス小山町店
6	セブンイレブン駿東小山町菅沼東店	16	マックスバリュエクスプレス小山須走店
7	セブンイレブン駿東小山町須走東店	17	豊門公園
8	ローソン小山町須走口店	18	ふじさん花鮮市場
9	ローソン小山町須走東店	19	富士霊園
10	橋本屋商店		

②サイクルステーションへの登録

- サイクルステーションは、サイクリストがいつでも休憩できる環境としてルート上にトイレ、空気入れの貸出し、水分補給、休憩スペース・設備、サイクルラック、サイクリストへの情報提供などが備わっている施設である。サイクルステーションの整備は、国のナショナルサイクルルートの指定要件の1つとなっている。
- 町内には2カ所（駿河小山駅前交流センター、道の駅「すばしり」）のサイクルステーションが登録されており（登録先：ぐるり富士山サイクルツーリズム推進協議会）、サイクリスト等への休息の場を提供している。

No.	施設	概要
1	駿河小山駅前交流センター	フリースペースや観光案内などを備えた交流施設
2	道の駅「すばしり」	須走地区の国道138号沿いに位置する観光交流センター



サイクルステーション（駅前交流センター）



サイクルステーション（道の駅「すばしり」）



(3) 東京2020大会オリンピック・パラリンピックのレガシー

① 記念モニュメントの設置

東京2020大会開催の記念モニュメントを町内5ヶ所に設置し、サイクリストの立ち寄りスポット・撮影スポットとして利用されている。



記念モニュメントの場所



記念モニュメント前で記念撮影を楽しむサイクリスト

② レガシー花壇の活用

東京2020大会全日程で大会コースとなり、おもてなしエリアとして、色とりどりの花と地元の応援で選手を歓迎した棚頭交差点において、「小山町花の会」に協力をいただき、毎年夏と秋に400株のマリーゴールドとビオラの植栽を行っている。



オリパラ花壇の作業風景

③レガシー活用イベントの開催

○ツアー・オブ・ジャパン富士山ステージ (TOJ)

毎年5月に日本国内で行われるアジアを代表するステージ制の自転車ロードレース。全8日間全国8ステージで行われる国内外のプロ選手が参加する競技大会であり、日本最大規模のUCI（国際自転車競技連合）公認国際自転車ロードレースである。

小山町では、東京2020大会コースを一部利用したレガシーレースとして、第6ステージ（富士山ステージ）を開催している。



ツアー・オブ・ジャパン富士山ステージ

○コースサポーター

東京2020大会において、競技運営補助や選手・観戦者の安全確保など重要な役割を担っていただくボランティアを募って、運営を行った。その運営ボランティアのレガシーを引き継ぎ、ツアー・オブ・ジャパン富士山ステージにおけるボランティアとして活躍しているほか、スポーツコミッション Shizuoka（静岡県）が運営する常設ボランティア組織「ふじのくにスポーツボランティア」の設立につながっている。

○サイクリングレガシーイベント in OYAMA

サイクルタウンおやまの取組の一環として、東京2020大会にゆかりのある著名人を招いて走行する“サイクリングレガシーイベント”において、ゴール会場である富士スピードウェイで、参加者を迎え入れるイベントを開催している。

○サイクルボール

全国各地の一周コースをステージに設定し、サイクリストそれぞれが好きなコースで自由にサイクリングを楽しめる期間型サイクルイベント。

専用アプリでエントリーし、チェックポイントを巡りながら走行することで完走が証明される。アプリ内でサイクルボール通貨を貯めて特典と交換できる仕組みや、グループプライドを行う「サイクルボールチャレンジデイ」といったイベント等も開催している。

2市1町（御殿場市、裾野市、小山町）が、東京2020大会のコースを一部使用し、富士山を1周する「富士いち」というコースで参画しており、3市町それぞれの起点施設発着のメインコース及びショートコースを設定している。

○富士山グルメライド

東京2020大会自転車ロードレース開催地の御殿場市・小山町・裾野市をぐるっと巡り、地元のグルメやスイーツを味わって絶景スポットを満喫するサイクリングイベントを開催している。



富士山グルメライド 2025

(4) 自転車の普及啓発

①自転車教室による裾野拡大

○ロードバイク魅力発信事業

オリンピックに出場したアスリートを招き、ロードバイクの魅力やロードバイクと普通の自転車との違い、自転車の交通ルール等を学び、アプリを活用した走行体験を実施する。

東京2020大会のレガシーはもとより、自転車ロードレースへの興味を深めるため、自転車に触れ親しむ機会を創出することを目的としている。



ロードバイク魅力発信事業

○初心者向けロードバイク安全乗り方教室

オリンピックに出場したアスリートを招き、専門家によるロードバイクの初心者を対象に乗り方や安全に走行するための技術や知識を学ぶ安全乗り方教室を開催している。

町民に対し、自転車を安全に楽しく乗ってもらうための裾野拡大にも取り組んでいる。



ロードバイクの安全乗り方教室

○親子で補助輪外し教室

自転車チームのサポートを受け、補助輪を外して自転車に乗れるようになるための「ひとりで乗るための自転車教室」を開催している。



親子で補助輪外し教室

○在住外国人向け自転車安全教室

町内の企業には外国人の研修生や労働者が増えており、これらの外国人への交通ルールの周知が課題となっている。

企業では外国人研修生に自転車やヘルメットを貸与しており、本町では企業と連携して、在住外国人に向けて安全な自転車利用に関するルールなどの知識や意識啓発を目的とする「自転車安全教室」を開催している。交通安全に関して継続的な啓発・教育の取組が求められている。



在住外国人向け自転車安全教室

○その他自転車に親しむための各種イベントへの協力

富士スピードウェイのレーシングコースをママチャリで6時間走行する耐久レース「スーパーママチャリGP」の出店協力をしている。

(5) 富士山一周サイクリングルート（フジイチ）の取組

①ナショナルサイクルルート指定に向けた取組状況

「ぐるり富士山サイクルツーリズム推進協議会」は、富士山一周サイクリングルート（フジイチ）を国のナショナルサイクルルートとしていくことを目指して、官民連携により取り組む組織として、静岡県・山梨県の両県が一体となって、令和5年8月に設置された。

令和5年度には公募によりフジイチのロゴマークが決定され、ナショナルサイクルルート指定基準に合わせてルートを設定して、令和6年度からアクションプランの策定を行い、ルートの確定、安全で快適な走行空間の整備などを推進、案内サインのデザイン検討、受入れ環境整備としてゲートウェイ、サイクルステーション、サイクリストに優しい宿などの要件整備に向けた取組を進めている。また、これらの情報を公式WEBサイトの開設、サイクリングMAPの作成により発信している。

【ナショナルサイクルルートの要件項目】

No.	観点	考え方
1	ルート設定	サイクルツーリズムの推進に資する魅力ある安全なルートが設定されている
2	走行環境	迷わず安心、安全に走行できる環境が整備されている
3	受入環境	サイクリストのニーズに対応したサポートが充実している
4	情報発信	必要な情報が容易に入手可能である
5	取組体制	質の高いサイクリング環境を維持し、更なる向上を図るための継続的な取り組み体制がある



フジイチのロゴマーク

1km、500m手前



直前



案内サインのデザイン



サイクルステーションの標章



フジイチ公式のサイクリングマップ

※R7.11 月下旬完成予定 ➡ 差し替え

小山町としては、ぐるり富士山サイクルツーリズム推進協議会に参画して、県や周辺市町とも連携しながら、受入環境の整備に協力している。

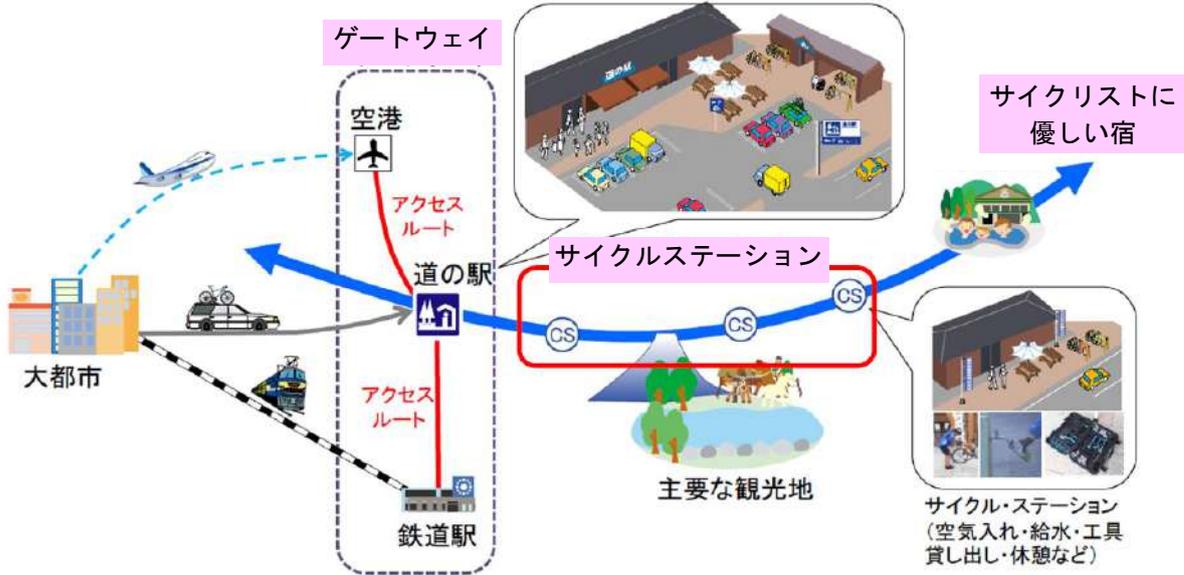
本町に位置するフジイチのゲートウェイとしては、道の駅「すばしり」が候補となっているが、ゲートウェイ指定の必須要件を満たすためのレンタサイクルや更衣室の設置が必要となる。

また、本町では「サイクルステーション」や「サイクリストに優しい宿」となる受入施設の登録・認定について、民間事業者等への働きかけも行っている。

一方、フジイチの町内区間には国道 138 号の須走から籠坂峠の間に急勾配の箇所が存在し、誰もが安全・安心に走行できる環境となっておらず、急勾配区間の事前告知や代替移動手段の提供などの対策が求められている。

【フジイチの受入環境整備としての取り組んでいる項目】

No.	受入施設 (NCR 要件)	考え方
1	ゲートウェイ	サイクリングの出発地点で多様な交通手段に対応 (空港、鉄道主要駅、道の駅など)
2	サイクルステーション	サイクリストに必要な機能を有した休憩施設
3	サイクリストに優しい宿	サイクリストが利用可能な宿泊施設



ナショナルサイクルルートの受入環境のイメージ



サイクルステーションやサイクリストに優しい宿の認定書



ゲートウェイの候補地

(2025年9月ぐるり富士山サイクルツーリズム推進協議会資料より)

② レンタサイクルの設置

富士山麓では、手ぶらで訪れ、レンタサイクルを借りてサイクリングを楽しむ観光客（インバウンドを含む）も増えている。本町の駿河小山駅前交流センター「フジサイクルゲート」では電動アシスト自転車のレンタルを行っており、サイクリストや観光客の休憩スペースとしても利用されている。

フジイチルート沿いの拠点施設でのレンタサイクルも求められており、フジイチのゲートウェイやサイクルステーションと連携して整備することが期待される。



フジサイクルゲート

③ イベントの開催

フジイチを国内外に周知するため、民間事業者と連携してサイクリングイベントを開催している。

○ 「富士山1周サイクリング」

㈱ルーツ・スポーツ・ジャパン主催で、富士山のまわりをぐるっと1周する走行距離120km、獲得標高1,800mのサイクルイベント。令和7年度は雨天のため中止となったが、静岡県（御殿場市）に加えて山梨県（鳴沢村）を発着拠点に追加し、スルガ銀行が特別協賛を行うなど年々規模を拡大している。小山町では、例年ルート沿線にある道の駅「すばしり」をエイドステーションとし、参加者の受入れと地場製品の提供を行っている。



富士山1周サイクリング2025

④ 住民・事業者参加によるの自転車走行空間の維持管理活動

須走地区では、まちづくり推進協議会や事業者等が中心となり、フジイチルートである国道138号沿いの草刈りやガードレールの塗装等、景観向上のための活動を地域ぐるみで行っている。（年2回、毎回400名程度が参加）



国道138号沿いの草刈り作業

2 前計画の評価

(1) 計画体系と措置

前計画の体系（目指す姿、視点・目標、施策）と措置は以下の通り。

【目指す姿】 だれもが気軽に楽しめる、サイクルタウンの実現

視点・目標 1 自転車の利用促進

自転車交通の役割拡大による良好な都市環境の形成 [長期]

施策 1 自転車ネットワークの形成

- ① 東京2020オリンピック・パラリンピック自転車競技コースを活かした自転車通行空間の整備（ネットワーク計画）

施策 2 自転車利用の裾野拡大

- ② 自転車の魅力に関するイベントの開催
- ③ 自転車のメリット（節約、環境に優しいなど）に関する周知推進
- ④ キッズバイクレースの開催

視点・目標 2 スポーツ・健康

サイクルスポーツの振興などによる健康まちづくりの実現

施策 3 サイクルスポーツの普及、振興

- ⑤ 東京2020オリンピック・パラリンピック自転車競技コースを活かした自転車通行空間の整備【再掲】
- ⑥ 自転車競技大会の開催
- ⑦ キッズバイクレースの開催【再掲】
- ⑧ マウンテンバイクコースの整備
- ⑨ 自転車アスリートの育成、競技力向上を支援
- ⑩ 静岡県内に拠点を置くプロサイクリングチームの活用による自転車協議のPR

施策 4 自転車を活かした健康づくり

- ⑪ 自転車利用による健康増進に関する周知推進
- ⑫ おやま健康マイレージを活用した自転車利用促進
- ⑬ 健康に関するイベントの開催

視点・目標 3 サイクルツーリズム

サイクルツーリズムの推進による環境立町の実現

施策 5 観光資源を活かしたサイクルイベントの拡充

- ⑭ 世界遺産である富士山や、金太郎、自然豊かな景色などを活かした、サイクルイベントの拡充

施策 6 世界に誇るサイクルツーリズムの推進

- ⑮ サイクルツーリズムの拠点機能を持つ施設やサービスの拡充
- ⑯ e-BIKE 環境の創出
- ⑰ 輸送環境の向上

視点・目標 4 安全・安心

自転車事故のない安全で安心な社会の実現

施策 7 安全で良好な自転車走行環境の推進

- ⑱ 自転車交通ルール、マナーの周知及び安全利用の啓発推進
- ⑲ 自転車交通安全指導の実施推進
- ⑳ 道路利用者（ドライバー、自転車利用者）それぞれへの道路利用する際の安全事項の周知
- ㉑ 静岡県自転車条例の周知

施策 8 災害時における自転車活用の推進

- ㉒ 自転車のメリット（災害時の活用など）に関する周知

(2) 目標の進捗状況

前計画の措置別の目標達成状況は以下の通り。

措置	指標	現状値 R1	R2	R3	R4	R5	R6	目標値 R7
1	自転車の利用促進							
①	自転車の通行空間整備延長の整備率 (各種整備形態合計)	14%	23%	27%	27%	35%	35%	37%
	達成率		62%	62%	72%	94%	94%	
②	自転車の魅力に関するイベント開催数	年2回	年2回	年4回	年5回	年12回	年10回	年4回
	達成率		50%	100%	100%	100%	100%	
③	自転車のメリットに関する啓発活動	年0回	年1回	年1回	年1回	年1回	年2回	年2回
	達成率		50%	50%	50%	50%	100%	
④	キッズバイクレース参加者数	122名	0名	0名	19名	71名	19名	200名
	達成率		0%	0%	9.5%	35%	9.5%	
	平均達成率		40%	53%	57%	69%	76%	
2	スポーツ・健康							
⑤	自転車通行空間整備延長の整備率【再掲】	14%	23%	27%	27%	35%	35%	37%
	達成率		62%	62%	72%	94%	94%	
⑥	自転車競技大会参加者数	約600名	0名	1,184名	1,160名	84名	84名	約700名
	達成率		0%	100%	100%	12%	12%	
⑦	キッズバイクレース参加者数【再掲】	122名	0名	0名	19名	71名	19名	200名
	達成率		0%	0	9.5%	35%	9.5%	
⑧	マウンテンバイクコースの整備	0コース	0コース	0コース	0コース	0コース	0コース	1コース
	達成率		0%	0%	0%	0%	0%	
⑨	町内の自転車競技連盟(JCF)登録競技者	0人	0人	1人	2人	2人	2人	10人
	達成率		0%	10%	20%	20%	20%	
⑩	県内に拠点を置くプロサイクリングチームの 連携事業実施回数	年1回	年1回	年3回	年3回	年3回	年5回	年3回
	達成率		33%	100%	100%	100%	100%	
⑪	自転車と健康に関する啓発活動方法	0種類	1種類	2種類	1種類	2種類	3種類	2種類
	達成率		50%	100%	50%	100%	100%	
⑫	おやま健康マイレージを活用した自転車利用に関する啓発活動方法	0種類	1種類	1種類	0種類	0種類	1種類	2種類
	達成率		50%	50%	0%	0%	50%	
⑬	自転車と健康をテーマにしたイベント開催数	年0回	年0回	年0回	年0回	年0回	年0回	年2回
	達成率		0%	0%	0%	0%	0%	
	平均達成率		21%	46%	39%	40%	43%	
3	サイクルツーリズム							
⑭	サイクルイベント参加者数	約7,500名	540名	2,300名	3,200名	5,848名	6,140名	約8,500名
	達成率		6%	27%	54%	68%	72%	
⑮	バイシクルピット設置数	14箇所	14箇所	14箇所	14箇所	19箇所	19箇所	20箇所
	達成率		70%	70%	70%	95%	95%	
⑯	e-BIKE レンタル台数	0人	63人	141人	134人	237人	200人	400人
	達成率		15%	35%	33%	59%	50%	
⑰	町内における輸行可能交通機関数	1機関	1機関	1機関	1機関	3機関	3機関	2機関
	達成率		50%	50%	50%	100%	100%	
	平均達成率		35%	45%	52%	80%	79%	

4 安全・安心								
⑱	街頭での自転車利用ルール、マナー啓発活動	年 2 回	年 2 回	年 2 回	年 3 回	年 2 回	年 2 回	年 3 回
	達成率		66%	66%	100%	67%	67%	
⑲	交通安全教室開催数	年 3 回	年 4 回	年 5 回	年 5 回	年 8 回	年 9 回	年 4 回
	達成率		100%	100%	100%	100%	100%	
⑳	自転車乗車中の人身事故件数	2.5 件	0 件	1 件	2 件	2 件	1 件	0 件
	達成率		100%	60%	20%	20%	60%	
㉑	静岡県自転車条例の周知促進活動	年 2 回	年 3 回	年 3 回	年 3 回	年 8 回	年 11 回	年 4 回
	達成率		75%	75%	75%	100%	100%	
㉒	災害時における自転車利用の周知活動活動	年 0 回	年 1 回	年 1 回	年 0 回	年 0 回	年 1 回	年 1 回
	達成率		100%	100%	0%	0%	100%	
平均達成率			88%	80%	59%	57%	85%	
全体平均			46%	56%	51%	61%	71%	
進行目安			50%	60%	70%	80%	85%	100%

※R7 目標値は計画策定時の値

3 計画課題の整理（骨子）

(1) フジイチの推進とナショナルサイクルルート（NCR）指定に向けた対応

- 自転車走行空間整備への協力
- 安心・安全な走行環境の確保
 - ・急勾配区間の表示やフジイチマップ、フジイチ公式WEBサイト、道の駅「すばしり」の情報コーナーなどでの事前告知への協力
 - ・急勾配区間の代替交通機関（バス、タクシー）への利用誘導の協力
 - ・E-BIKE レンタサイクルへの利用誘導の協力
- 道の駅「すばしり」のゲートウェイへの登録のための整備
 - ・レンタサイクル（E-BIKE、スポーツバイク等）設置
 - ・ロッカー、更衣室などの整備
- 民間事業者と連携したサイクルステーションやサイクリストに優しい宿の登録促進
- フジイチルート付近でのレンタサイクルの充実
- インバウンドの受入環境の強化
 - ・インバウンド客への自転車交通ルールの周知
 - ・多言語表記の案内サイン整備や多言語表記のマップ、WEB サイト
 - ・キャッシュレス決済など

(2) オリパラレガシーの継承と広域連携

- 富士山東麓地域（2市1町1村：御殿場市・裾野市、小山町、山中湖村）との県境を越えた連携による東京2020オリパラルートの活用策の検討
- 町単独及び2市1町1村によるサイクリングイベントや誘客策の検討
 - ・静岡県と連携したロードレースの拡充
 - ・オリパラ記念モニュメントやフジイチ周辺の地域資源を活用したファンライドや誘客キャンペーンなど
- オリパラルート及びフジイチ周辺の走行環境や周辺景観の適切な維持管理
 - ・住民、民間事業者、利用者団体、道路協力団体等による清掃・美化活動の支援など
（参考例：須走まちづくり推進協議会の景観向上の取組、小山花の会のオリパラレガシー花壇整備）

(3) フジイチからの町内への引込策

- 町内を巡るサイクリングルートの発信
 - ・地域資源を活用した小山町らしいサイクリングルートの発信
 - ・マップやWEB サイト、SNSなどを活用した情報発信
- 駿河小山駅や道の駅「ふじおやま」など交通結節点からの誘導策（中長期的な取組）
 - 【短期】JR 駿河小山駅前を起点とする町内周遊ルートの発信
 - 【中長期】町内の交通結節点からフジイチへの自転車走行空間整備
- 町内を巡るガイドサイクリングの仕組みづくり
 - ・地域人材やサイクリングガイドの育成
 - ・小山町観光協会や株式会社まちづくり公社おやま（地域DMO）と連携した町内を巡るガイドサイクリングツアーなどの観光商品化や販売体制の構築（宿泊プランを含む）

(4) 町民の自転車の安全運転啓発と利用促進策

- 自転車利用促進のための自転車安全運転教室の継続
- 自転車のルールやマナーの周知（新制度導入の周知を含む）
- 電動アシスト自転車購入補助の検討
 - ・坂道が多い町内を自転車で走れるための支援
- 企業従業員の自転車通勤奨励策の推進

第3章 第2次自転車活用推進計画

1 目指す姿

本計画では前計画の目標である「だれもが気軽に楽しめる、サイクルタウンの実現」を踏まえながら、さらに小山町らしいサイクルライフのあり方を追求するために、以下の目指す姿を掲げます。

目指す姿

富士の絶景・自転車のまち 小山

～オリパラレガシーを継承し、サイクリングを楽しむ～

富士山の雄大な景観を望みながらサイクリングを楽しむことができる地域特性を活かし、町民や来訪者が安全かつ快適に自転車を活用できる環境の整備を推進します。

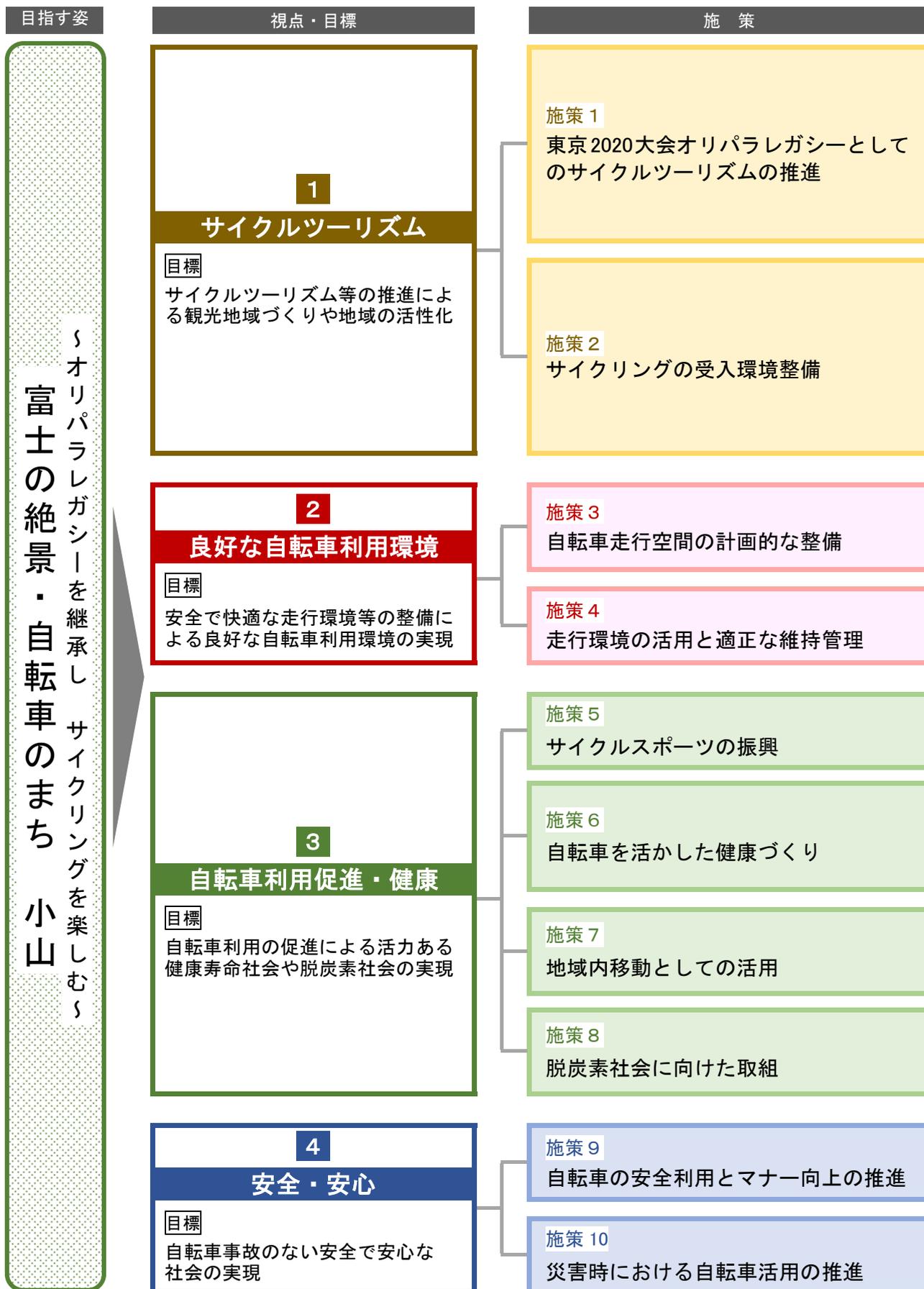
また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーを地域の誇りとして継承することで、サイクルツーリズムを含む観光の増大や、来訪者との交流を通じて、まちの活性化につなげていくことを目指します。

2 計画目標

本計画の目標は、国の次期計画（第3次自転車活用推進計画）を勘案し、以下のように設定します。

視 点	課 題	目 標
サイクルツーリズム	<ul style="list-style-type: none"> ・東京2020大会オリパラレガシーの継続的な活用 ・ナショナルサイクルルートに対応したサイクルツーリズムの受入環境整備 (拠点登録、サービスの提供、地域人材の育成、急勾配区間の告知や代替移動手段の検討) ・インバウンド誘客のための環境整備 ・サイクリングによる観光商品の開発 ・サイクリングに関する情報発信 	サイクルツーリズム等の推進による <u>観光地域づくりや地域の活性化</u>
良好な自転車利用環境	<ul style="list-style-type: none"> ・フジイチルートの走行空間整備への協力（未整備箇所） ・交通結節点への引込み・案内誘導 ・周辺自治体と連携した広域連携 ・自転車走行空間を活用した取組（集客イベントなど） ・自転車走行環境の適切な維持管理 	安全で快適な <u>走行環境等の整備</u> による良好な自転車利用環境の実現
自転車利用促進・健康	<ul style="list-style-type: none"> ・町民の日常的な自転車活用の促進 ・自転車に乗っていない人、乗れない人に向けた乗車指導による利用者の裾野拡大 ・サイクルスポーツの振興 ・健康増進としての自転車利用啓発 ・脱炭素社会に向けた自転車利用の推奨 ・レンタサイクルの充実と利用促進 ・企業における自転車通勤の普及拡大 	自転車利用の促進による活力ある <u>健康寿命社会や脱炭素社会</u> の実現
安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車の安全運転ための交通ルールやマナーの周知、意識啓発 ・安全運転のための町独自の支援策 	自転車事故のない <u>安全で安心な社会</u> の実現

3 新体系



措 置

- ① フジイチイベントへの協力
- ② サイクリングコースの造成
- ③ サイクル・アクティビティの情報発信
- ④ 自転車によるインバウンドの誘客
- ⑤ ツアー・オブ・ジャパン富士山ステージの開催
- ⑥ 自転車合宿の積極的な誘致
- ⑦ シビックプライドの醸成

- ① ナショナルサイクルルートに対応した受入環境の整備
- ② バイシクルピットの維持・充実
- ③ レンタサイクルの充実
- ④ 輸送環境の維持・PR
- ⑤ サイクルツーリズムの担い手育成
- ⑥ 自転車利用者向けの駐車場確保の推進（パーク＆サイクリング）
- ⑦ トラブルに対応するレスキューサービスの研究

- ① フジイチルート関連の走行空間整備・協力
- ② 富士山東山麓地域（2市1町1村）の広域連携による走行空間整備（御殿場市、裾野市、小山町、山中湖村）

- ① 走行環境を活用した自転車イベントの実施
- ② 自転車走行環境の適正な維持管理

- ① サイクルスポーツのPR
- ② 町内の自転車競技連盟(JCF)登録促進

- ① 自転車利用による健康増進のPR
- ② 自転車通勤の促進
- ③ おやま健康マイレージを活用した自転車利用促進
- ④ 『小山町で自転車活用を進めよう』通信

- ① 自転車通勤の促進【再掲】
- ② レンタサイクルの充実と利用促進
- ③ サイクルトレインの研究

- ① 脱炭素社会に向けた自転車利用のPR
- ② 自転車通勤の促進 【再掲】
- ③ レンタサイクルの充実と利用促進【再掲】

- ① 自転車交通ルール、マナーの周知
- ② 自転車ヘルメット着用の推進

- ① 災害時のレンタサイクル活用（災害ボランティア）

4 施策と措置

自転車活用の推進に関する実施すべき施策と具体的な措置は以下のとおりです。

【目標 1】 サイクルツーリズム等の推進による観光地域づくりや地域の活性化

施策	措置
<p>施策 1 東京 2020 大会 オリパラレガシーとしての サイクルツーリズムの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① フジイチイベントへの協力 <ul style="list-style-type: none"> ・ サイクルボール ・ 富士山一周サイクリング ・ 富士山グルメライド ・ 初心者ロードバイク教室 ・ ママチャリ GP ・ TOKYO2020 自転車ロードレースレガシーサイクリング ② サイクリングコースの造成 <ul style="list-style-type: none"> ・ サイクルツーリズム向けのコース造成 ・ ガイドサイクリングツアー等の観光開発の推進 ③ サイクル・アクティビティの情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・ サイクリングMAPの作成、発進 ・ 情報ツールを最大限に活用した情報発信 ④ 自転車によるインバウンドの誘客 <ul style="list-style-type: none"> ・ 多言語表記のサイン整備 ・ キャッシュレス決済の普及 ⑤ ツアー・オブ・ジャパン富士山ステージの開催 ⑥ 自転車合宿の積極的な誘致 ⑦ シビックプライドの醸成 <ul style="list-style-type: none"> ・ オリパラアーカイブの保存と公開 ・ 小中学校教材などにおけるテーマの活用
<p>施策 2 サイクリングの受入環境整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① ナショナルサイクルルートに対応した受入環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ ゲートウェイの整備（道の駅「すばしり」） ・ サイクルステーションへの登録促進及びPR（道の駅「ふじおやま」） ・ サイクリストに優しい宿への登録促進 ・ 急勾配区間の事前告知や代替移動手段への誘導の協力 ② バイシクルピットの維持・充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ バイシクルピットの定期点検 ・ 受入れマニュアルの作成 ③ レンタサイクルの充実 ④ 輸送環境の維持・PR ⑤ サイクルツーリズムの担い手育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ ガイドサイクリストの育成 ⑥ 自転車利用者向けの駐車場確保の推進（パーク＆サイクリング） ⑦ トラブルに対応するレスキューサービスの研究 <ul style="list-style-type: none"> ・ タクシー会社や地域事業者などとの連携

【目標 2】安全で快適な走行環境等の整備による良好な自転車利用環境の実現

施策	措置
施策 3 自転車走行空間の計画的な整備	① フジイテルート関連の走行空間整備・協力 ② 富士山東山麓地域（2市1町1村）の広域連携による走行空間整備（御殿場市、裾野市、小山町、山中湖村）
施策 4 走行環境の活用と適正な維持管理	① 走行環境を活用した自転車イベントの実施 ・ サイクルボール ・ 富士山1周サイクリング ・ 富士山グルメライド ・ 自転車教室 ・ TOKYO2020 自転車ロードレースレガシーサイクリング ② 自転車走行環境の適正な維持管理 ・ 自転車走行空間の維持管理（清掃、修繕など） ・ 危険個所の点検・整備

【目標 3】自転車利用の促進による活力ある健康寿命社会や脱炭素社会の実現

施策	措置
施策 5 サイクルスポーツの振興	① サイクルスポーツのPR ・ TOJ 機運醸成事業 ・ ロードバイク魅力発信教室 ・ 自転車教室【再掲】 ② 町内の自転車競技連盟（JCF）登録促進 ③ 乗っていない人・乗れない人に向けた利用促進 ・ 自転車教室【再掲】
施策 6 自転車を活かした健康づくり	① 自転車利用による健康増進のPR ② 自転車通勤の促進 ③ おやま健康マイレージを活用した自転車利用促進 ④ 『小山町で自転車活用を進めよう』通信
施策 7 地域内移動としての活用	① 自転車通勤の促進【再掲】 ② レンタサイクルの充実と利用促進 ③ サイクルトレインの研究
施策 8 脱炭素社会に向けた取組	① 脱炭素社会に向けた自転車利用のPR ② 自転車通勤の促進【再掲】 ③ レンタサイクルの充実と利用促進【再掲】

【目標4】自転車事故のない安全で安心な社会の実現

施策	措置
<p>施策9 自転車の安全利用とマナー向上の推進</p>	<p>① 自転車交通ルール、マナーの周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車教室【再掲】 ・ 交通安全教室（交通安全協会） ・ 街頭啓発活動（御殿場警察） ・ 自転車保険加入義務に関する周知 <p>② 自転車用ヘルメット着用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ヘルメット着用義務化の周知 ・ 自転車用ヘルメット購入助成の継続・PR
<p>施策10 災害時における自転車活用の推進</p>	<p>① 災害時のレンタサイクル活用（災害ボランティア）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車の機動性を活かして車が通れない場所への被災情報の確認（防災訓練による試行） ・ 在宅避難者等の安否確認や情報収集（防災訓練による試行） ・ 在宅避難者への避難所等の情報伝達（防災訓練による試行）

5 計画の評価指標のまとめ

本計画における施策進捗の評価指標は、以下の通り。

	指標	区分	現状値 (R6 度)	目標値 (R12 度)	備考
1 サイクルツーリズム					
①	サイクルイベント参加者数	継続	6,140 人	7,140 人	町内のサイクルイベントへの参加者数 (各年総数)
②	ガイドサイクルツアーの回数 (累計)	新設	0回	3回	町内資源を巡る自転車を利用したガイド ツアーの開催回数(累計)
③	「サイクリストにやさしい宿」 登録数	新設	0件	3件	町内の宿泊施設が「サイクリストにや さしい宿」に登録している件数
④	「サイクルステーション」登録 数	新設	2件	4件	「サイクルステーション」に登録してい る町内の施設数
⑤	町内における輪行駐車スぺ ースの確保箇所数	新設	0カ所	2カ所	パーク&サイクリングができる駐車場 の箇所数
⑥	レンタサイクルの利用回数	修正	200 回	1,000 回	レンタル回数(台数×日数の累計)
⑦	広域連携による自転車イベ ントの開催回数	修正	3回	4回	近隣市町と連携した自転車イベントの 開催回数(累計)
2 自転車の利用促進					
①	自転車走行空間の整備延長 と整備率	修正	27.7 km ----- 47%	58.6 km ----- 100%	矢羽根(車道混在)の整備を行う路線の 整備率 国道:1路線 県道:9路線 町道:7路線
②	住民・事業者参加による自 転車走行空間の維持管理活 動件数(累計)	新設	4件	20 件	沿道の草刈り、花壇の植栽 等
3 スポーツ・健康					
①	「おやま健康マイレージアプ リ」の自転車関連メニュー参 加者数(累計)	新設	0人	1,000 人	R8 年度開始の自転車関連メニュー参 加者数(累計) ※R7.2~アプリ開始
②	「おやま健康マイレージアプ リ」のサイクリング延べ記録 者数	新設	449 人	2,000 人	運動項目「サイクリング」の延べ記録 者数 ※R7.2~アプリ開始
4 安全・安心					
①	自転車利用ルール、マナー 啓発活動回数(累計)	継続	2回	10 回	自転車マナー向上キャンペーン 等
②	交通安全教室開催回数(累 計)	継続	9回	50 回	自転車にかかる交通安全教室の開催 回数(累計)
③	自転車乗車中の人身事故件 数	継続	1件	0件	
④	ヘルメット購入補助金への申 請数(累計)	新設	62 件	150 件	小山町が提供しているヘルメット購入 補助金への申請数(累計)

《補足》 自転車走行空間の整備（自転車ネットワーク計画）の考え方

本町における自転車走行空間の整備については、国（国土交通省）がガイドラインで示している3つの整備形態（自転車道、自転車専用通行帯、車道混在）のうち、歩道を含まない「車道混在」で実施する。

整備の考え方については、オリパラルートを主体として富士山麓の広域で取組むフジイチルートから町内周遊へ引き込むことをイメージして、御殿場市、裾野市、山中湖村（山梨県）、山北町（神奈川県）、南足柄市（神奈川県）と調整してルートの構築を推進する。

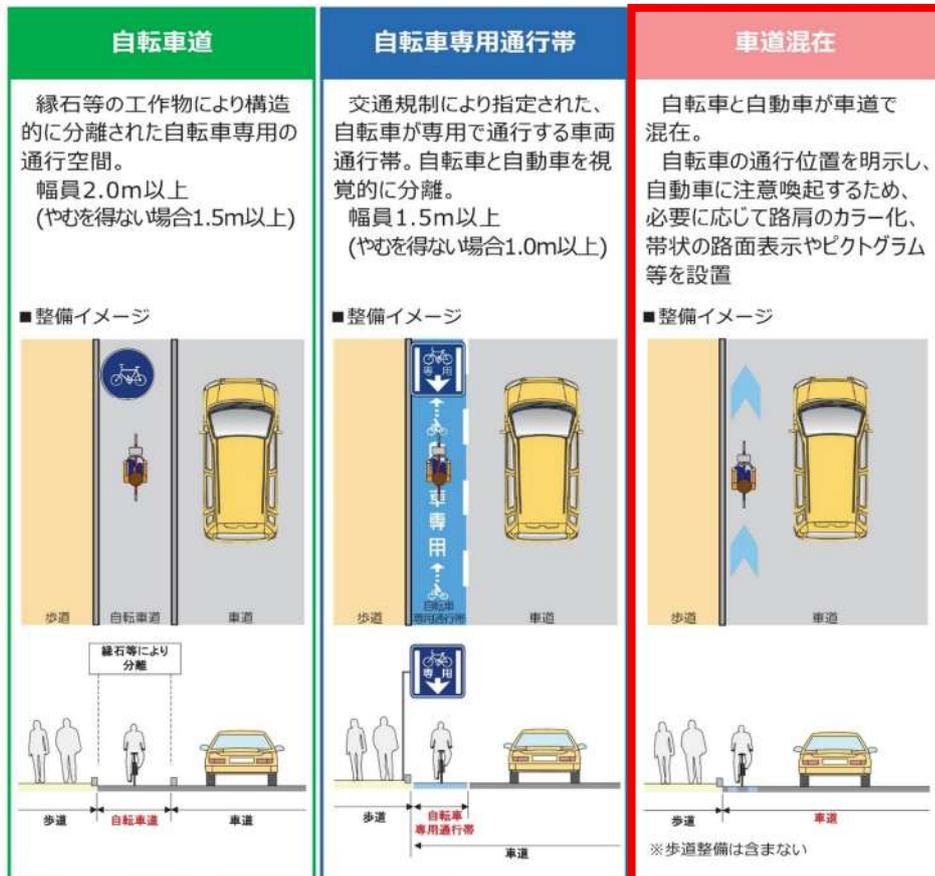
ステップ1

- ① 東京2020大会オリパラルート及びフジイチメインルートを主体とする【青線+赤線】

ステップ2

- ② ①ルートから町内施設への主要な引き込みルートを確認する【緑線】
 （主な町内施設：道の駅「ふじおやま」、豊門公園）
- ③ JR 駿河小山駅・JR 御殿場駅へのアクセスルートの整備を検討する【緑線】
- ④ 広域間で連携の取れたルートを位置づける【全体】

「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」では、自動車の速度と交通量から、車道通行を基本とした整備形態選定の考え方が記載されています。

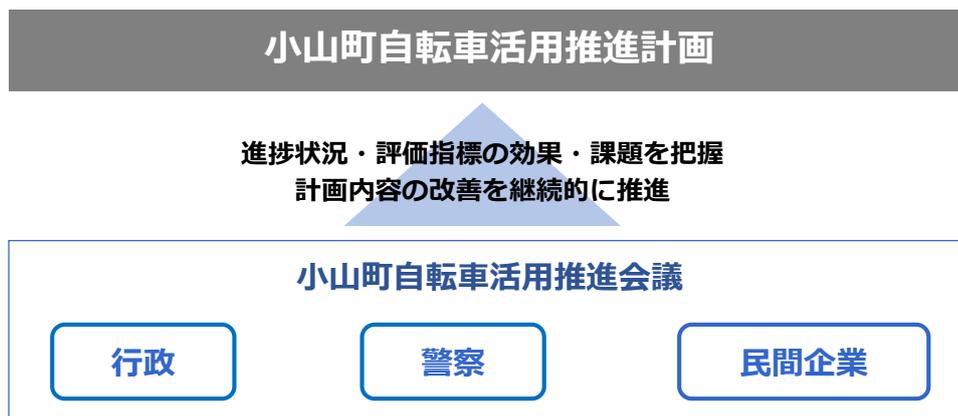


※出典：安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン（平成28年7月）
 国土交通省道路局 警察庁交通局

第4章 計画の推進

1 計画の推進体制

本計画の推進は、警察、民間企業、行政で組織する「小山町自転車活用推進会議」が中心となり、一定期間ごとに取組の進捗状況や目標指標モニタリング等により、効果・課題などを把握していきます。



2 計画の進捗管理

本計画を推進し、見直しなどの対応を図るためには、取組をしっかりと行った上で、その結果について検証し、目的が達成されるよう、継続的に改善を行っていく必要があります。

そのため、PDCAサイクルを実践し、「小山町自転車活用推進会議」によって、確実に進捗管理を行い、継続的な計画の推進を図ります。



PDCAサイクル

小山町役場 経済産業部 商工観光課
〒410-1395 静岡県駿東郡小山町藤曲 57-2
Tel : (0550) 76-6114 Fax : (0550) 76-2795
Mail : kankou@fuji-oyama.jp